

営農型太陽光発電事業の展開に向けた 業務提携について

2025年8月27日



1. 業務提携の目的

3社の強みで課題を克服し、2030年エネルギーミックスの達成に向け
営農型太陽光発電事業の展開に挑戦いたします。

事業展開の主な課題

営農両立

導入コスト

売電価格

社会的受容性

3社の強みと業務提携での役割



より、そう、ちから。

東北電力

電気・エネルギーの知見
地域との連携

- 発電所建設・運用
- エネルギー統合管理
- 地域ネットワーク活用



千葉エコ・エネルギー株式会社

10年以上に亘る
営農型実践ナレッジ

- 学術的・政策的アプローチ
- 営農両立へのナレッジ提供
- 事業化支援



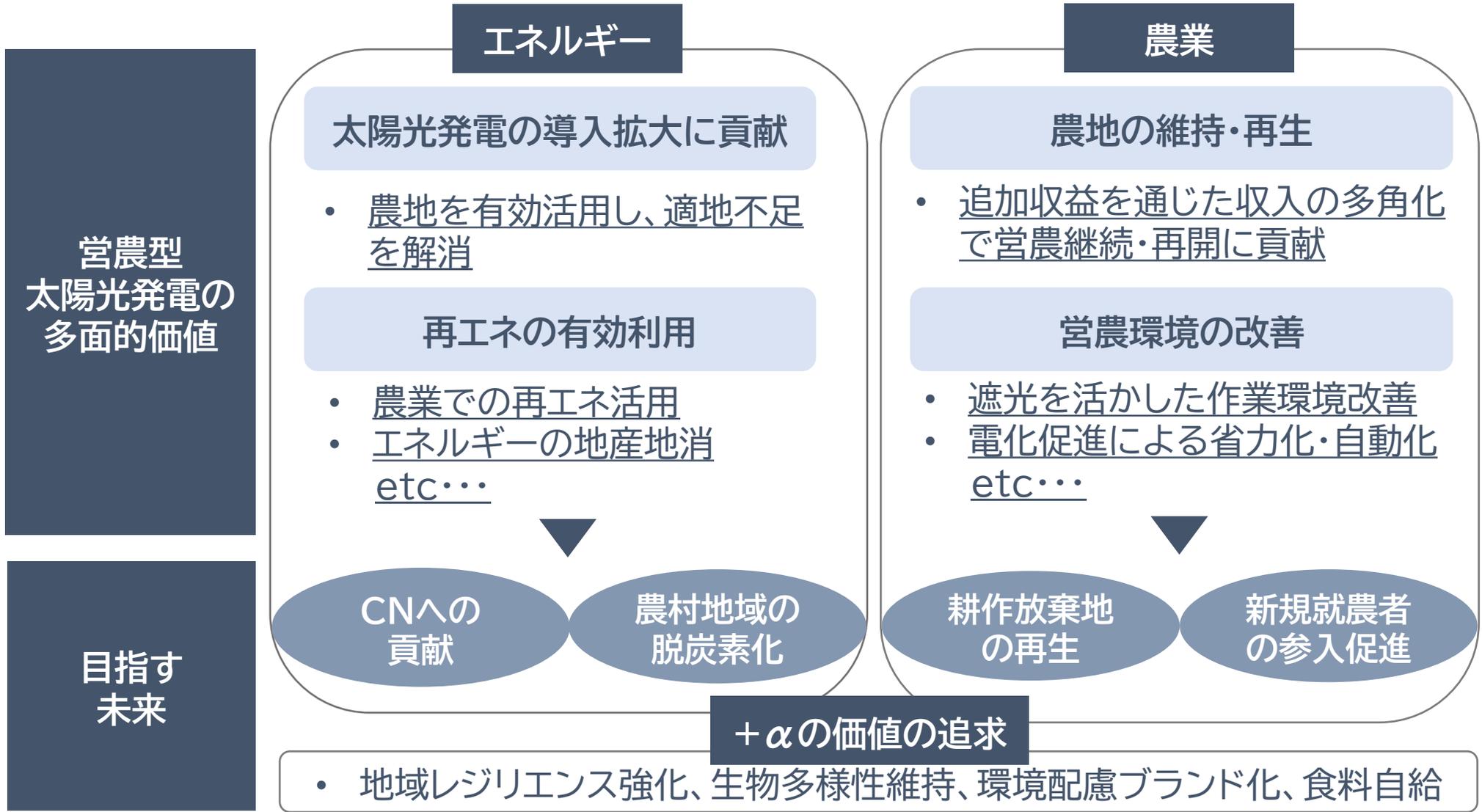
グローバル基準の
設計・技術力

- 発電システムの設計
- エンジニアリング
- 規制アドバイザー

適切に営農を行い 地域と共生する 営農型太陽光発電事業の展開

2. 持続可能なエネルギーと農業の未来に向けて

東北6県および新潟県をはじめとしたさまざまな地域で、営農型太陽光発電の多面的価値をさらに追求し、持続可能なエネルギーと農業の未来を目指していきます。



(参考①)千葉エコ・エネルギー株式会社の概要

営農型太陽光発電に関して、千葉エコ・エネルギーは事業化支援全般と10年以上の実績を踏まえた実践的ナレッジを持っています。

千葉エコ・エネルギー株式会社

- 営農型太陽光発電事業の事業化支援実績は500件以上
- 自社子会社で農業法人(つなぐファーム)を設立し、営農型太陽光発電に加え先進的な農業生産も実践
- 代表事例:自社での営農型太陽光発電所運営



同社が2018年より運用する営農型太陽光発電所
(栽培作物:ナス)



同社が2021年より運用する耕作放棄地を再生した
営農型太陽光発電所
(自動灌水システムを用いたイチジク栽培)

グローバル基準のGXソリューションをベースに、営農型太陽光発電に関して、Cyrinxは設計を含む技術面の知見と実績を有しています。

Cyrinx株式会社

- 再生可能エネルギーおよび系統用蓄電池プロジェクトの包括的な支援が強み
- 戦略、技術、財務の専門知識から、各事業のコストとリスクを最小限に低減
- 代表事例:3社共同による実証
→東北電力、千葉エコ・エネルギー、Cyrinxの3社で効率的な架台を研究

実証事例



建設風景



完成した実証機

Cyrinx発明による
採用予定の開発済み
可倒式架台
(特願2025-090844)

ポイント

部品点数
削減

営農重視の
設計

工法の
工夫

(参考③) 営農型太陽光発電事業の検討背景

太陽光発電の適地減少が深刻化し地域主導型脱炭素政策への転換が進む中、農業と発電の統合モデルである営農型太陽光発電への期待が高まっています。

図1: 2030年エネルギーミックスにおける太陽光の導入進捗



※2024年12月時点の導入量
(導入量にはFIT/FIP認定済未稼働を含まない)

図2: 太陽光の導入目標達成に向けた内訳

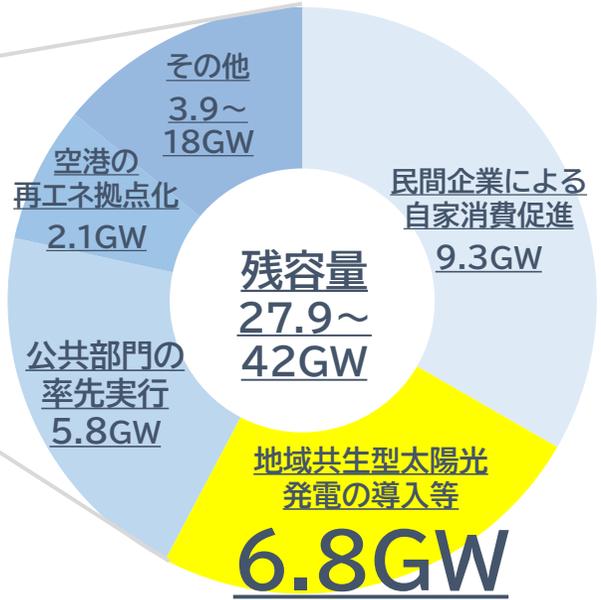


図3: 千葉エコ・エネルギーの営農型太陽光発電所



※写真提供: 千葉エコ・エネルギー

- 太陽光の導入拡大は必要だが地上設置型の適地は減少

- 地域共生型太陽光導入拡大が主力施策の1つに

- 収穫体験にて、地域住民との交流促進と食農教育を実施

適地探索の必要性

豊かな農地の活用

営農両立し地域と共生する太陽光発電所

出所 図1、図2: 経済産業省 資源エネルギー庁 「今後の再生可能エネルギー政策について」を基に東北電力作成
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/pdf/074_01_00.pdf